

日野市子ども・子育て事業計画(仮称)「新!ひのっ子すくすくプラン」の骨子(案)

序章 計画策定にあたって

- 1 少子高齢化の急速な進展 2 子どもや親をとりまく状況の変化
- 3 家庭の子育て力回復と地域での子育て 4 保育サービスに求められる役割
- 5 学校教育に求められる役割 6 子育て支援・保育制度の充実に向けて

第1章 市民と共に創り出す子育て支援に向けて

1 新!ひのっ子すくすくプランの策定体制

2 計画の趣旨

急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応して、子どもや保護者に必要な支援を行い、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会を実現するため、平成24年8月に制定された子ども・子育て支援法により市町村子ども・子育て支援事業計画を策定することが義務付けされました。

子ども・子育て支援法の基本理念及び子ども・子育て支援の意義を踏まえて、日野市が進める子育て支援・子育ち支援施策の基本的な方向性や目標を示すものとして「新!ひのっ子すくすくプラン」を策定する。

第2章 現状と課題

- 1 国や東京都の動向 2 日野市の少子化の特徴 3 子育て支援施策の状況
- 4 課題のまとめ ~日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査から~

第3章 計画の位置づけ

- 1 新!ひのっ子すくすくプランの位置づけ
 - 子ども・子育て支援法第61条に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画
 - 児童福祉法第56条の8に規定される市町村保育計画
 - 母子及び寡婦福祉法第12条に規定されるひとり親家庭自立支援計画
 - 次世代育成支援対策推進法第8条に基づく市町村行動計画
- 2 計画の期間と対象
 - 平成27年度～平成31年度(5年間) ■対象者は0歳から概ね18歳まで

第4章 基本理念と基本目標(将来像)

《基本理念》

《基本目標(将来像)》

- ① 親育ち「
- ② 子育ち「
- ③ 地域育て「
- ④ 次世代育て「

第5章 施策体系と重点的な取組

■基本目標①

- | | |
|----------------------|--|
| 健やかな成長を支える遊び・学びの場づくり | (1)遊び、集う体験事業の充実 (2)学びの場の充実
(3)農や自然を大切にする体験活動の充実 |
| 出会いと豊かな体験を生み出す環境づくり | (1)子どもの居場所づくり
(2)遊びを通して育ちと体験の場づくり |
| 心と体の健やかな成長を支える | (1)心の健康を守る支援の充実 (2)体の健やかな成長を支える支援の充実 |

■基本目標②

- | | |
|----------------------|--|
| 多様なニーズを叶えるための子育て支援 | (1)多様なニーズに対応した保育の場づくり (2)保育の質の向上
(3)子育て支援拠点におけるコーディネート機能の強化 |
| 育児・子育てを願うママとパパの場づくり | (1)市民による子育て支援の輪づくり (2)子育て相談の充実 |
| 震度8における医療・保健・福祉の支援体制 | (1)安心して出産し、育児ができる支援
(2)男女ともに子育てを楽しめる環境づくり |
| ひとりで子育てするための環境づくり | (1)安心して子育てできる就労環境づくり (2)男女ともに子育てを楽しめる環境づくり
(3)子育て世帯への経済的支援 |
| ひとり親家庭への支援 | (1)ひとり親家庭への支援の充実 |
| 児童虐待への対応、小学校等の子への支援 | (1)児童虐待防止への取り組み (2)不登校・ひきこもりの子への支援 |

■基本目標③

- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| 地域で子育てを支える | (1)子育て支援の強化に向けた市民活動(NPO等)支援 |
| 学校・家庭・地域社会との連携 | (1)学校と地域の連携 |
| 安全で安心して子育てができるまちづくり | (1)安全・安心なまちづくりの推進
(2)子育てしやすいまちづくり |

■基本目標④

- | | |
|------------------|---|
| 家族や地域の人とのふれあいの促進 | (1)家族のふれあいの促進 (2)次の世代の親育て
(3)子どもの人権意識の醸成 |
|------------------|---|

第6章 個別施策の展開

- ① 「一人ひとりが輝く主体的でたくましいひのっ子育て」
- ② 「子育ての豊かさと楽しさの発見」
- ③ 「共に生き、お互いに育てあうまち」
- ④ 「生きる力を身に付けて、新しい時代を切り拓く心を育てる」

第7章 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込み 、提供体制の確保の内容、実施時期について

- 1 各事業目標設定の考え方 2 人口推計結果 3 目標値の算出方法
- 4 教育・保育に関する目標設定 5 地域子ども・子育て支援事業に関する目標設定

第8章 計画の推進に向けて

- 1 日野市としての総合的な取り組み 2 市民参画と地域との連携強化
- 3 計画の効果的かつ効率的な推進 4 時代のニーズに応える施策展開 5 計画の推進体制

【委員意見について】(参考)

理念

キーワード：家族、つながり、母育て、子育て
近所、支える、明るい、育てる喜び、安心

思い：昔ながらの子育て、近所地域で見守り育てたい。
むすびつきを大切に、良いおせっかいを。

将来像

①親育ち

キーワード：余裕、子育ての悩み不安解消、仲間

②子育ち

キーワード：コミュニケーション能力、自己肯定感

③地域育て

キーワード：保護者への寄り添い、親の成長を支える

④次世代育て

キーワード：異年齢交流、思いやり、優しさ、社会
体験、生命を慈しむ心

自由意見

A large, empty rectangular box with a thin black border. The top-left corner contains the text "自由意見". The box has rounded corners and is positioned centrally on the page.

【委員意見について】（参考）

理念

すべての子どもの安全安心な生活環境

すべての子どもの充実感あふれる笑顔

将来像

①子育ち

子どもは親を選ぶことはできません。どんな親の元に生まれても、子どもは幸せに生きる権利を持っています。その子どもの権利のために、行政や学校・地域社会が、子どもの発達段階に応じた支援を積極的に行う事が大切です。

② 親育ち

親も子どもを選ぶことはできません。どんな子どもが生まれても、親はその子どもを幸せに育てる義務があります。子どもを幸せに育てるために、親となる準備期間から体験を通して学ぶ機会づくりをし、我が子とともに地域社会に参加する中で、親として自信をもち、子育てや子どもの成長に喜びを感じられる支援していくことが大切です。

③地域育て

孤立化しがちな子育て中の親が、地域社会に一步を踏み出すきっかけ作りを担う人材の養成が必要です。さらに地域の一員となった親が、次は支援する側となり、途切れることのない連鎖で、地域の輪を創り続けることが大切です。

④ 次世代育て

ゲームやケイタイの普及で、バーチャル世界に没頭しがちな子どもたちが、現実の世界で生命の力強さやはかなさに触れる機会をもつことが必要です。また、人と人とのつながりなくして人間は生きていけないことを子どもの頃から体験できる場の創出が大切と考えます。

自由意見

小学校に入学した子どもが「ひのっち」で友達の輪を広げ、地域の公園や児童館などへと巣立って行くように乳児を抱えた母親も同様に子育てひろばなどでママ仲間の輪が広がり、地域の公園などへと巣立って行きます。

子育てひろばなど、知っている人がいない、初めて行く場所に自ら一步を踏み出すことは、とても勇気のいることです。

この一步を踏み出せず、家庭で孤立感を抱きながら育児している母親に一步を踏み出すきっかけを作る対策が必要だと思います。

【委員意見について】(参考)

理念

子どもを育て 子どもと育つ

地域の支えで 広がる輪 (和)

将来像

①親育ち

- ・子育ての基本は“親”
- ・子育ての悩み、迷いを手助けしてくれる多種多様な場所の存在
- ・子どもと共に親も学ぶ

②子育ち

- ・発達段階に応じた支援が必要
- ・社会体験による社会性の育成
(他者を認め思いやる心)

③地域育て

- ・地域人材の養成と活用
- ・子育て支援への積極的な参加
- ・家庭力向上の一助

④次世代育て

- ・保育園、幼稚園などの職場体験や「命の授業」などにより、小さな子どもを慈しむ心を育み、命の大切さを学ぶ機会を増やす

自由意見

子ども子育て支援事業を考える前に・・・・

そもそも、子どもを産み育てるに夢を持てる社会かどうか・・・・

若者の雇用を確保し、出産と子育て環境を整備するとともに、男女の仕事と生活の両方を調和させていくことが、安定的な経済社会の実現につながると思います。その為には、企業の意識改革も必要であり、公務員のみならず、国が中小を含む一般企業に対しても制度推進のため、助成を進めるべきと考えます。

そのうえで・・・・

基本、子どもを育てるのは親の仕事です。ただし、就労等で時間的な制約がある場合、他者の支援を受けることも必要でしょう。そんなときに安心して任せられる場所があることは大切なことです。子ども子育ての支援が社会的にも声高に呼ばれてから10年・・・・今はたくさんの支えが子育て中の親をそして子どもたちを受けとめてくれます。

親が笑顔で子どもと向き合い、語らえる・・・その手助けを地域・行政が担っていく時代になってきています。

そのためにも広くこの事業をPRし「必要な人に必要な支援」を速やかに行なうことが重要です。

絵に描いた餅は要りません！

具体的な支援や施策をもっともっと広く市民に提示し、適正な利用推進を促す努力を行政は行うべきです。

【委員意見について】（参考）

理念

- 家族、子育て、笑顔、安心、地域
- 地域とのむすびつきの中で、安心して生活・子育てを行なえるように

将来像

①親育ち

- ・親としての自覚、愛情、責任
- ・子育ての楽しさ
- ・ゆとりを持つ

②子育ち

- ・心、身体の安心、安定感
- ・年令に応じた成長（他者と比較しない）
- ・子供の権利

③地域育て

- ・見守る力
- ・地域の支援
- ・不安、悩みの手助け

④次世代育て

- ・関係機関の支援
- ・地域とのふれあい
- ・遊びの場所

自由意見

人は一人ではない。

まわりには、あたたかく見守り支援する人、居場所、関係機関がある事を知つてもらうことが大切だと思います。

他者とのかかわりが少ない、できない孤立した方を少しでも減らす工夫をしていくことが必要。

【委員意見について】（参考）

理念

育てよう みんなの子ども 作ろう

みんなの安心社会

将来像

①親育ち

子供の成長とともに親も成長していきます。親になっていくために必要な情報、コミュニティ、気づき、学びの機会を支援し、1人で悩まない社会を作ります。

②子育ち

子供は自らでは成長する場所を選べません。
家族や社会がそれに気付き、発達段階に応じた成長の場を与え、愛情を注ぐ事により、情緒豊かな子供を育て、また子供が安心して学べる場を作ります。

③地域育て

地域の特性や経験豊かな人材を活用し、誰でも気がねなくとけこめるコミュニティをつくり、子供や親が孤立しないよう、地域みんなで子育てに参画できる社会を作ります。

④次世代育て

子供を育てることは私たちみんなの将来を作ることです。子供は社会の子供であり、子育てに寄り添うことで次世代を担う子供に思いやりと生きる力を与えていきます。

自由意見

A large, empty oval-shaped area for writing a free opinion. A small rectangular box labeled "自由意見" (Free Opinion) is positioned at the top left, connected by a thin line to the start of the oval.

【委員意見について】（参考）

理念

「協働」

将来像

① 親育ち

結婚、子供が生まれるとほとんどの会社では、退社を余儀なくされるのが今の日本社会である。ご主人は職種によっては、土日勤務は当たり前である。残業も当たり前である。母親、女性が社会に出られるよう政治の力で改革していかなければならない。「協働」したい女性は埋もれている。

② 子育ち

子供は社会の鏡である。教育現場にいると痛感する。担任の働きかけで子供は変わっていく。子供に罪はない。

③ 地域育て

運動会が終わったところである。行事を通して、「協働」する姿を見せている。開門前から校庭に入り、シートを敷く様子が4年前まであった。3年前から7時半開門にした。保護者は正門から敷地外を囲むようにして待っている姿が今である。正門にはPTA役員、校長、副校長が立ち、10人ずつ入っていただくようにはじめる。すると、指示通りシートや用具をもって入っていく姿が見られる。係の子供はそれを見ながら教室に入っていく。昼食時間には校庭、体育館で家族で昼食をとる。とり終わった保護者、PTA役員は如雨露をもって、水撒きをしてくださる。子供はそれも見ている。「協働」である。

④ 次世代育て

少子・高齢化に向かい、将来の社会構造を想定した教育が必要である。

本校PTA主題は「協働」である。大人の働く姿を子供が見て、自らの働き方を考えるきっかけ作りが今である。

自由意見

・最近の学校は大変ですね。とよく言われる。モンスターペアレント出現、インターネットがらみ事件、団塊の世代大量退職、若手教員の増加、地域や家庭崩壊等の情報が毎日流されるからだろう。

現場にいると、親は子育てに一生懸命であることがわかる。「早寝、早起き、朝ご飯」もほとんどの家庭では実行されている。各家庭では家庭教育も真剣に行われているし、宿題点検も確実である。そこから隣の家庭との垣根が高くなっているのが現在の日本である。子供同士、子供と地域のご年配の方との間に起きた出来事がそこで解決できないのですべて学校に処理をお願いすることにならざるを得ないのも事実である。

道徳、英語授業実施、小中9年間一貫教育、コミュニティースクール化、タブレットパソコン導入、インターネット教育、租税教育、地域防災教育、アレルギー対策、薬物防止教育、地域行事参加、市P協参加、・・・・・・・・。目白押しである。

「協働」をキーワードに取組んでいる。よろしくお願いします。

【委員意見について】（参考）

理念

キーワード：地域力、人と人との結びつき、思いやり、
共感、共有、包容力、安心感、温もり

思い：地域での人と人との結びつきを強め、思いやりと信頼感のある環境の中でみんなで子育てを共有したい。地域で次世代を育てていくという気持ちで子育てに関わり、自分たちも共に成長していきたい。

将来像

① 次世代育て

地域の行事への主体的関わり、自分の役割の発見、社会体験、社会には様々な人が（幼児、高齢者、障がいのある人）いることを実感して生まれる思いやりの心、若い世代（中学生・高校生・大学生）のこどもへの関わり

② 地域育て

人と人の結びつきによる地域力、さりげない声かけ、見守り、居場所づくり、共有、厳しさとやさしさ、地域の温もり、包容力（多様な子を受け止める力）、人を差別したり排除しない心を育てる、

③ 子育ち

自己肯定感、自分が必要とされている認められているという認識、尊重心（他者を認める心）の形成、自己決定権（子ども抜きに子どものことを考えない）、保護されるばかりではなく自分自身で切り拓く力の獲得

④ 親育ち

地域の結びつきによる安心感、相談できる関係性、包容力、親同士・地域との子育ての喜びの共有、子どもの権利の認識、決めつけない気持ち、精神的・時間的余裕、ワーク・ライフ・バランスの推進

自由意見

私のイメージの「地域」は、厳しく叱ることもあるけれど優しく親身になってくれる近所のおじいちゃん、おばあちゃんです。昔はそんなおせっかいな人たちが周りにいて、親も子どもも人の温もりを感じながら社会のマナーも学んでいたと思います。今では昔に比べ、学童保育・児童館は充実し、ひのっちなど子どもの放課後の居場所は増えていますが、おせっかいな近所のさりげない見守りの目は減っています。核家族化が進む中で、親と子の関係は煮詰まることが多く、そこで風穴となる地域の人の結びつきはますます必要となってきているはずなのですが、自治会、子供会などの共同体はどんどん解体し、地域の人たちは他人に関心を持たない、余計な干渉はしない個人主義に慣れ切ってきて久しいのが地域の現状です。

様々な地域活動をしていると、忙しい中で近所づきあいをするのは面倒で苦痛だという若い親が年々増えていることを感じ、人と人との結びつきを強めていくのは並大抵ことではないと日々感じます。それを踏まえながらも、人と人のつながりをつくるためにはどうしたらいいか、自分が地域で子どもに関わる大人として必要なことを考え、まとめてみました。

○日常の子どもたちへのさりげない声かけ

挨拶だけではなく、例えば学校の行事などで見かけたその子の様子や作品をほめたり、遊びや自転車のマナーの悪さを注意するなど身近な親しい立場での声かけ。

○地域でのイベント・広場などの機会つくり

地域で共に遊べる機会をつくり、子どもや親と仲良くなり結びつきを深める。

○子どもができる地域活動への誘い

例えば、夏祭りを開催した時に、子どもをお客として参加させるだけではなく、主体的に手伝ってもらい、役割と責任を与えて役立てるという喜びを感じてもらう。他にもボランティア活動などに積極的に誘い、社会活動を通して色々な体験をしてもらう。その経験から社会には幼児、高齢者、障がいのある人など様々な人がいて、皆が尊重し合わなければならぬこと、人も認め自分自身も肯定することを学ぶ。

○地域の学生・児童館リーダーを育てる。

高校生・大学生や児童館リーダーに積極的に地域に関わってもらい、幼児や小学生の遊びや地域活動を補佐してもらう。若い世代の地域の縦の結びつきができ、地域を一緒につくっていこうとする連帯感が生まれ、学生のリーダーにはリーダーシップと責任感が身につく。

これらの活動の中で大切なのは、なにより子どもの意思を尊重することです。大人が子どもの自己決定権を認め尊重しなければ子どもも他人を尊重するようにはなりません。また、保護されてばかりで自分で考える機会の少ない子は、自分自身で状況を切り拓いていく力が育たないと思います。大人は既成概念を持って決めつけることをせず、多様な性格や考え方の子どもがいることを認めていく必要があります。

地域の大人がこれだけの姿勢で子育てを支えていくためには自身も成長しなければならず、まさに「地域育て」ではなく、最終的には地域の大人たちも育てる「地域育ち」にもなることを改めて感じます。また、親の働き過ぎが子どもに与える悪影響は精神的にも肉体的にも大きく、重大な社会問題だと思います。延長保育も不必要とは言いませんが、貧困家庭の救済措置や企業の協力と周りの理解により、きちんとした保障の下での労働時間の短縮は検討されるべきと考えます。

【委員意見について】(参考)

理念

子どもとおとな、一人一人が笑顔で行き交うまち

笑顔とあいさつが行き交う地域・ひの

将来像

①子育ち

1. 子どもの権利を尊重するための環境づくりの推進
子どもの権利について学び共有し、すべての市民が
お互いの人権を尊重するための環境（基盤）を作る

②親育ち

2. 家族への支援のための新システムづくり
ファミサポから見ても家族の在り方、存在が多様に
なり課題も山積している。従来の枠組みではとらえき
れない家族に対し柔軟に寄り添った支援の在り方を
具体的に提示する。

③次世代育て

3. 自主性と意欲を育む子どもの特性に応じた学びの
場、遊びの場作り

保育所保育指針（H2O）では、子どもの最善の利
益を育む保育と謳い自己研鑽、自己評価しながら保育
の質を高めるとしている。

これまで8年間に渡り、保育所の巡回相談を行って
きたが、子どもの特性より大人の都合で判断されて
意欲を失い子どもも多い。

特別支援という枠のみならず、多様な子どもに適
した学びの場遊びの場の提供をしていきたいと考え
る市民は多い。

④地域育て

4. 市民と行政、専門家などの協働による子育て支
援の推進

上記の市民を含め、子育て支援の現場には様々な
市民がかかわり試行錯 誤で活動を行っている。組
織力、情報力、経済力を持つ行政と、専門性、柔軟
性、迅速性、現場力をもつ市民や専門家との協働の
システムを作り子育て支援の充実を図る。

自由意見

子育て支援についての基本的姿勢は以下のように考える

子育て支援の充実は、子どもの最善の利益、子どもの権利の視点に立って考えられるべきものである

これまでのひのっ子すぐすくプラン（前期、後期）の理念や施策の方向を確認すると子育て支援を行う側の論理で策定されているように感ずる。

新ひのっ子すぐすくプランでは、子どもの視点に立ち子どもの主体性を育むことに焦点を当てて検討していきたい。

親を育てる、地域を育てる当の言葉は心地よいが具体性に欠けていた。世の中の動きは想像以上に速い。対応するためにはより具体的な施策を提示することにより、PDCA サイクルで検証し 3 年後、5 年後に修正しプランを推進していくシステムが必要だと考える。

【委員意見について】(参考)

理念

子どもが健やかに成長できるまちを、すべての日野市民が手を取り合って作ってゆこう

将来像

①子育ち

安心できる居場所、自己肯定感、子どもの権利、コミュニケーション

②親育ち

相談できる場所がある、スタイルに応じた子育て、違いを認めあう、親同士の交流

③地域育て

地域の連携、世代を超えた交流、つながり支えあう

④次世代育て

世代を超えた交流、地域の子はみんなの子

自由意見

人は、親になったからといって自然にすぐれた子育てができるようになるわけではありません。

生活スタイルの多様化を認め、それに応じた子育ての支援および親子の関係性の支援が必要です。

親の利益、子どもの利益といった、施策によって得られる受益面にはかり焦点が当てられてしまい損得勘定では非が議論されてしまうことのないよう、子どもの健やかな成長を願う大人たちが皆がつながりあい、理解しあい、認めあい、育ちあう地域社会が築かれることを願います。

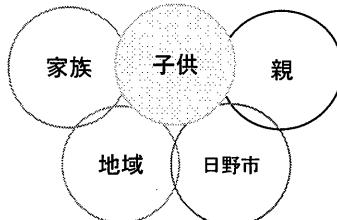
働く親の子育てという面で言えば、学童クラブの現状の問題を解消するとともに、施設設備の拡充をもって、より安心して働きながら子育てをしていく環境が築かれることを望みます。

国の打ち出した学童クラブの運営基準はあくまで最低基準であり、働く親の子どもの放課後の生活の場がさらに充実するよう、独自により充実した基準を設け子育てしやすいまち日野、子どもの声が響く日野になることを願います。

【委員意見について】(参考)

理念

子供は未来の財産！！
みんなで創ろう 子育て オリンピア



将来像

①子育ち

自ら多くの友達を創り、人と触れ合い、夢や目標をもち、教育を受け、将来を楽しめる、人であってほしい

②親育ち

子育てを行うには、まずは親自身が子供との接点を多く持ち、個性を把握し、ゆとりをもち、人に相談したり、子育てのしくみを勉強したり、ポジティブになること

家族は、子供たちの育成の近くで愛を与え、時に相談にのり、モラル・教育もおこない、過去の歴史も伝承し、子供の将来にそっとフォローを行う

③地域育て

子供をサポートする地域は、子供に対し叱咤激励ができる、温かく見守り、子供会や組織の中で育み、地域一帯で子供をフォローしていく

日野市は、家庭の支援・出会いと豊かな体験を生み出す環境つくり、保育・医療・保険・福祉の支援体制を創っていく

④次世代育て

自由意見

A large, empty oval-shaped area for writing a free opinion. A small rectangular box labeled "自由意見" is positioned at the top left corner of the oval.

【委員意見について】(参考)

理念

子どもたちの笑顔があふれ、歓声が聞こえるまちに

①子育ち

- ・子どもが自分の力で育つ機会を保障する

失敗からしか学べないことがある。

失敗した体験から学ぶ機会、やりたいことに挑戦して自由に遊ぶ機会、子どもが子どもの時間をゆったりと過ごす機会、自然の中でのびのびと遊べる場の保障、仲間とふつかり合って人間関係を覚える機会を尊重する。子どもが自分の力で育つために必要な機会を大人が奪わない。子どもの「今」を大切にする。子ども時代の主人公は子ども自身である。自らの力で育つ機会を尊重することで、自己肯定感が高い人が育つ。
緑と清流の街：日野市が持つ豊かな自然環境を生かした子どもたちの居場所を充実させる。

- ・完璧な親なんていらない

親自身ががんばると、いい子育てができると思っている。「正しい子育て」「ちゃんとした子に育てないと」という強迫観念が強い。親だって失敗したっていい。子育てに教科書はない。親も今できることを一生懸命やるしかない。子育ては一人でできない。子育てはたくさんの人助けられてできること。人の中でくつろぐ姿、社会とつながって生き生きと過ごす親の姿など、人とつながって生きている親の姿こそ、子どもたちに伝えて行きたい「理想の子ども」「ちゃんとした子ども」にわが子を近づけるのではなく、目の前のわが子の気持ちに寄り添う子育てを大切にする。

- ・失われた人間関係を取り戻す

生活が豊かになると、自分で生きていく。ただし人間関係は希薄になる。生きていくだけで精いっぱいの世の中は、お互いに助け合わないと生きていけない。だから人間関係は豊かになる。今の時代、失われた人間関係を取り戻す必要がある。多くの人とつながるネットワークも大事だが、ちょっとしたことを頼める人が、地域に一人いることの安心感は計り知れない。子どもを通じて人と人がつながる街づくりを推進する。

④次世代育て

- ・ありのままを受け入れる懐の広い居場所を創る

自己肯定感が低い国：ニッポン

自分にマルがつかないと、いつまでたっても「できないこと」にしか目がない。人を（子どもを）受け入れるために、自分が受け入れてもらう必要がある。イベントのような「その時だけ楽しめる場」の用意だけでなく、子どもも大人もありのままを受け止めあい、お互いが温かいまなざしで支えあう日常的な居場所が必要である。

行政が用意する子育て支援サービスの充実も大事だが、市民やNPOが創る子育て中の親が持っている力を最大限に発揮できる場の用意、子育てをしている中で感じることや、自分のことを語り合う関係づくりを大切にしていく。

将来像

自由意見

私たちの活動に立川市から参加している方に、立川市の子ども・子育て会議の委員の方がいらっしゃったので、情報交換をしました。

私の立川市の第一印象は、国がどのような方向性を出そうが、子どもを中心としたぶれない子ども・子育て支援の軸を持っている、ということです。

国は民主党から自民党に代わり、次々とちぐはぐな政策を打ち出し、地方自治体や市民を翻弄しています（誤解を恐れず言わせていただければ、馬鹿にしているとしか思えません）が、国がどのように動こうと、ぶれない視点があれば、動じることは無いんだ、ということを感じました。

今回の理念・将来像はとても大事だと思い、私たちの団体で改めて今の思いを考え直し、整理しました。ただ、理念は立川市のものが素晴らしいかったので、ほぼそのままいただきました。

立川市の以下のようなぶれない視点が日野市にも欲しいです。

参考にしたいので、下記に記します。

子どもたちは「世の中を映す鏡」です。

世の中が希望に満ち、おとなたちがはつらつと生きているときには、

子どもたちの笑顔も輝き、希望に満ちます。

子どもたちの生きる姿の中に、わたしたちおとな自身が見えています。

子どもたちは「未来を映す鏡」です。

子ども時代には、おとなになって体験することのひな型をすべて体験すると言います。

子ども時代に、人に支えてもらうことや人を支えることの喜びをたくさん体験した子どもは、おとなになっても、それを生きる信条にするでしょう。

子ども時代に、自分の生活を自分の頭と身体で創造することが一番大事だということを学ばなかつた子どもは、おとなになっても、生活を創造することが苦手になるでしょう。

子どもたちの今の中に、二十年後、三十年後の社会が見えてくるのです。

子どもたちをしっかりと見つめ、その一つ一つの命を大切にすることは、私たちの社会を見直すことであり、私たちの現在と未来を、希望をもって構想することにまっすぐつながります。

よろしくお願ひいたします。